特定小電力トランシーバー

CL1K

総務省技術基準適合品

47 チャンネル

取扱説明書（詳細版）

このたびはモトローラの特定小電力トランシーバー CL1K をお買い上げいただきありがとうございます。
この取扱説明書は同梱されているクイックマニュアルの詳細版です。
ご使用される前に本書内の“製品の安全性と電磁波による影響”および“安全上のご注意”をお読みください。
このトランシーバーは国内専用モデルです。海外では使用できません。

モトローラ特定小電力トランシーバーのお問い合わせ先

TEL：03-6365-7000

ホームページ：
http://motorolasolutions-pcr.jp/index.php

QR コードで弊社ホームページへ移行できます。

仕様は改良のため、予告なしに変更することがあります。
モトローラ、MOTOROLA、モトローラ・ソリューションズ、MOTOROLA SOLUTIONS およびモトローラのロゴマークは Motorola Trademark Holdings, LLC. の登録商標であり、そのライセンスに基づき使用しています。文中に記載されている他の製品名やサービス名等は、各社の商標または登録商標です。

モトローラ・ソリューションズ株式会社
PCR 事業部
〒 106-0032 東京都港区六本木 1-8-7
アーク八木ヒルズ

MN000814A01

目 次

特定小電力トランシーバーの保証と責任

I. 保証対象及び保証期間：

本特定小電力トランシーバーは、モトローラの品質基準の基にモトローラ・ソリューションズ株式会社（以下「当社」といいます）で製造されたものです。
当社は、正常な使用状態で下記の特定小電力トランシーバー（以下「製品」といいます）の材料上又は製造上の欠陥に対し、ご購入日より以下に示す保証期間内の保証を行います。

トランシーバー本体........................ 1年間

当社は本保証規定に従い、保証期間内は無料で製品の修理（純正部品を用いて)、交換を致します。本体の保証期間に関しましては、お客様がご購入になった製品の保証期間で算定されます。交換した製品または部品は当社の所有となります。
本保証書は製品ご購入者に限り有効であり、第三者に譲渡されるものではありません。
当社役員による署名付きの書面での同意がある場合をのぞき、本保証書への追加及び変更に対して、当社はいかなる義務及び責任を負いません。当社と製品ご購入者の間で個別の同意がない限り、当社は製品の取り付け、メンテナンス又はサービスの保証は行いません。
当社は、製品に装着又は接続して使用される当社及びモトローラ供給以外のアクセサリーを使用した製品の運用に対し、いかなる責任も負いません。
通信システムで本製品が使用される場合、当社は、そのシステム全体、サービスエリア、運用等をまとめて本保証規定で保証するものではありません。

II. 保証規定：

本保証書は、製品に対する当社の責任と保証を定めたもので、一切の保証は保証期間内に限定されます。当社は当該製品の使用もしくは不使用に起因するご購入者の被る逸失利益、業務の中断、機会の損失やこれらに類する損害、または二次的損害等についての責任を負いません。

III. 以下は保証対象外となります：

Ａ）製品を正常かつ通常の使用方法でお取り扱いにならないことよって生じた故障及び損傷。
Ｂ）誤った、又は乱暴なお取り扱い、事故、腐食、火災、水害、又は放置によって生じた故障及び傷。
Ｃ）誤った、又は認可されていないテスト、使用、メンテナンス、サービス、修理、取り付け、変更、修正、又は調整によって生じた故障及び損傷。
Ｄ）材料上又は製作上の欠陥に直接起因する以外の理由で生じたアンテナの破損及び損傷。
Ｅ）説明書に記載の使用方法に反するお取り扱いを受けた製品。
Ｆ）製品の性能に支障をきたす、又は正常な保証検査及び補償請求確認のための製品テストを妨げるような、認可されていない改造、加工、分解、純正でない部品又は電池の使用と修理（当社が認可していない装置を使った製品に対する追加を含む）がなされた製品。
Ｇ）製造番号が取り除かれた、又は製造番号が判読できない製品。
Ｈ）利用者の修理が認められていない部品又はモジュールに付いたシールが外れている製品。
Ｉ）修理品発送に対する送料。
Ｊ）製品のソフトウェア / ファームウェアに不法又は無許可の変更が加えられている製品。
Ｋ）製品の運用に影響を与えない、製品の表面に付いた傷、又は外観上の損傷。
Ｌ）正常なご使用においての自然消耗、摩耗。
Ｍ）当社でプログラムされていないメモリーモジュール。
Ｎ）保証期間を過ぎた保証請求。

IV. 特許及びソフトウェア規定：

当社供給以外のソフトウェア、装置一式又はその一部を備えた製品又は部品の組み合わせに基づいた特許権の侵害請求に関して一切の責任を負いません。また、当社は製品に装着又は接続する、モトローラ供給以外の付属品又はソフトウェアの使用に対していかなる責任も負いません。上記は、製品又は部品に関し、特許権の侵害に関する当社の全責任を提示したものです。
法律により、版権で保護された当社のソフトウェアのコピー制作及びコピー流通の占有権など、当社の特定の占有権は保護されています。当社のソフトウェアは販売時に組み込まれている製品内でのみ使用されるものであり、当該製品の当該ソフトウェアはいかなる交換、コピー、流通、修正及び派生物の製造に使用されるものではありません。当該当社ソフトウェアの無制限の変更、修正、再生、流通、リバースエンジニアリング及び当該当社ソフトウェアが有する諸権利の行使などは禁じられています。当社の特許権又は著作権の元でない限り、いかなる許可も含意及び禁反言によって認められるものではありません。

V. 保証サービスの受け方：

保証サービスを受けるためには、ご購入を証明するもの（ご購入日と製品製造番号が明記されてあるもの）を添え、ご購入の販売店までご持参又は郵送して下さい。送料、保険はお客様のご負担になります。

VI. お問合せ先：

本保証規定に関してのご不明な点は下記までご連絡下さい。

モトローラ・ソリューションズ株式会社
PCR 事業部
電話 03-6365-7000
http://www.motorolasolutions.com/JP

製品の安全性と電磁波による影響（トランシーバー用）

本機を他の使用者に譲渡する場合には、使用者は、必ず本機の電磁波についての取り扱いが書かれた説明書（本書）を添えてください。

このトランシーバーは、離れた2つの間の通信を提供するため、無線周波数帯の中の電磁エネルギー、すなわち電波を使用しています。無線通信用のエネルギーである高周波エネルギーは、電磁エネルギーの一形態であり、例えば日光やX線もその1つに含まれます。しかしながら、高周波エネルギーは、不適切に使用された場合に生物学的損傷を引き起こす可能性が高い電磁エネルギーと同じように考える必要はありません。（例えば、X線の非常に高いレベルは、組織および遺伝物質を損傷する可能性があります。）

モトローラのトランシーバーは、以下の高周波エネルギーや電磁エネルギーのガイドラインに準拠しています。

- 米国電気電子学会（IEEE）C95.1
- 国際非電離放射線防護委員会（ICNIRP）

無線通信のための高周波エネルギーを安全に使用するため、科学、工学、医学、健康、そして産業分野に詳しい専門家が協力し、国際的な基準を策定しています。この基準はビジネスや一般的に使用される無線設備から放射される電波の推奨される値を提示しています。この値ついては、保護のため通常かなり余裕をもった値になっています。

すべてのモトローラのトランシーバーは、こうした国際基準の値を満たすように設計、製造、およびテストされています。さらに、トランシーバーの製造業者もトランシーバーを使用されるお客様に安全にお使いいただけるような操作手順をお勧めしています。これらは高周波エネルギーについての知識をお客様にご理解いただき、トランシーバーを安全に使用する方法についての簡単な手順を提供するために非常に重要なことです。

電磁波エネルギー曝露限度（電波が人体に与える影響において、人体が受けても差し支えない限度）について国際基準に準拠するには、以下の手順に従ってください。

- 電磁波エネルギー曝露は、アンテナからの距離の増加と共に減少します。
- 送信している間、人体暴露を与えています。連続送信するなど、50％送信比率を超えないようにしてください。
- トランシーバー本体やアンテナから鼻や唇が2.5cm以上離した状態で、トランシーバーのマイクが顔の前に来るようにして持ちます。アンテナは目から離れた状態にしておく必要があります。

- モトローラ純正のクリップ、ホルダー、ホルスター、アンテナ、電池パックをご使用ください。

航空機／医療機関について

機内、病院、および医療機関では外部電磁波エネルギーの影響を受けやすい機器を使用していることがあります。電源を切るよう指示されている場所ではトランシーバーの電源を切ってください。

ペースメーカー

米国先進医療技術工業会（Advanced Medical Technology Association)(AdvaMed)は、トランシーバーとペースメーカーの間の距離を少なくとも15cmは維持するかことを推奨しています。ペースメーカーを着用されている方は本機のご使用を控えてください。やむを得ずトランシーバーを利用する場合は必ず、トランシーバーを着用のペースメーカーから少なくとも15cm離しておいてください。

何らかの理由により、妨害が生じていることが疑われる場合には、すぐにトランシーバーのスイッチをオフにしてください。

トランシーバーからの干渉の潜在的なリスクについて、医師に相談してください（不十分シールド医療機器が干渉を受けやすくなる場合があります）。

補聴器

トランシーバーは、一部の補聴器に干渉することがあります。干渉する場合は、使用している補聴器メーカーに相談してください。

その他の医療機器

その他の個人用医療機器を使用する場合は、メーカーに相談してください。

安全運転について

運転中にトランシーバーを使用しないでください。

道路交通法、第71条第5号の5の規定により運転中にトランシーバーを手に持って使用することは禁止されています。

事故の原因になりますので、まず安全な路肩に寄せ、停車してから、通信をおこなってください。

または、ハンズフリー用純正アクセサリーのご使用を推奨しています。

音量について

大きな音が原因による聴覚の障害については、ときどき最初は自覚することなく、後になって感じられることがあります。長時間大音量で受信すると聴覚に影響を与えますので、最小限音量で、また短時間で使用してください。

聴覚を保護するには、次の事をお守りください。

- 最低限必要な音量で使用してください。
- 周囲の騒音で聞こえない時のみ、音量を大きくしてください。
- ヘッドセットまたはイヤホンを接続する時は、音量を下げてください。
- 長時間、大音量でヘッドセットやイヤホンを使用しないでください。
- ヘッドセットまたはイヤホンなしでトランシーバーを使用する場合は、直接耳にスピーカーをあてないでください。

安全上のご注意

本文中のマークの意味は次のようになっています。

警告	この表示は「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。
注意	この表示は「人が障害を負う可能性が想定される内容や物的損害の発生が想定される内容」を示しています。

警告

エアーバッグ

・エアバッグの配線との干渉を避けるために、トランシーバーの設置場所を、車両の製造元マニュアルを参照してください。

・エアーバッグの部分、またはエアーバッグが膨らむ場所にトランシーバーを置かないでください。エアーバッグは強い力で膨らみます。トランシーバーがエアーバッグの膨らむ場所に置かれている場合、エアーバッグが膨らみますとトランシーバーが強い力で押され、車の搭乗者がけがをする原因となります。

警告

発破区域での使用

・発破区域および雷管の近くではトランシーバーの電源を切ってください。

・爆発に影響を与えないよう、「発破危険」のように表示されている場所では、トランシーバーの電源を切ってください。

・爆発の恐れのある場所に立ち入る場合、立ち入る前にトランシーバーのスイッチをオフにしてください。

・爆発のおそれのある場所とは、ボートのデッキの下などの燃料補給・貯蔵場所、燃料や化学薬品の運送または貯蔵施設、および、空気中に穀物、ほこりや金属粉末などの化学物質や粒子が含まれている領域など、危険なガス、蒸気、または埃がある可能性があり、危険であると分類され、とりわけ爆発のおそれのある場所のことを言います。

・爆発の可能性がある場所での、取り付け、取り外し、および充電をしないでください。火花が散ることによってそれが爆発や火災の原因となり、身体的な損傷や死亡につながる恐れがあります。

注意

アンテナ

アンテナが壊れているトランシーバーは使用しないでください。

壊れているアンテナの導体が皮膚に触れ、送信した場合、軽いやけどをすることがあります。

注意

電池パック

すべての電池は、物的損害または傷害を引き起こす可能性があります。

電池パックは、金属製のものと共にポケットなどに入れたり金属ケースに入れないでください。

端子が他の金属製のものによりショートし、火傷、発火の危険があります。

危険環境下で電池パックを交換したり、充電しないでください。電池パックの脱着時に端子から火花が飛び、爆発や火災の原因になることがあります。

不正な修理をおこなったり、ラベルの貼り替えを行いますと、その機器の認定が無効となることがあります。

注意

静電気について

静電気が発生しやすい場所・条件でイヤホンでご使用される場合、静電気によって耳の皮膚に電気ショックを感じることがあります。そのような場合はイヤホンを使用しないようにしてください。

注意

アクセサリーについて

・当社製機器は、ホームページのリストに掲載されるアクセサリーが認定機関によって認定されています。アクセサリーとの組み合わせは、厳密に遵守する必要があります。

・接触不良の原因となりますので、アクセサリーを使用しないときには、アクセサリーコネクターカバー / フタを付けてご使用ください。

その他の安全上の注意

運用場所について

ゴルフ場などの野外でトランシーバーを使用中に雷鳴が聞こえた時は、落雷のおそれがありますのでトランシーバーを使用しないでください。

その他電子機器との混信

正しく設置されていない、また、十分にシールドされていない自動車の電子操作系統や娯楽用機器など、電磁波によって影響を受ける場合があります。その場合、それぞれの販売メーカーまたは販売店に、それらの設備が外部からの電磁波から適切にシールドされているかどうかご確認ください。また、自動車などに別途追加した設備についてもご確認ください。

衝撃

強い衝撃をあたえたり、投げつけたりしないでください。アンテナが破損することがありますので、トランシーバーを持つときは、アンテナをつかまないでください。

使用環境

・異常に温度が高くなるところや、直接雨や水のかかる場所に放置しないでください。変形や故障の原因になる場合があります。

・直射日光のあたる場所（自動車内）や高温になる所、極端な低温環境にトランシーバー本体を置かないでください。変形や故障の原因になる場合があります。

電池パックをお使いいただく前に

電池パックはお引渡し時には、十分充電されていません。ご購入後は、必ず充電してからお使いください。

・リチウムイオン電池パックは、チャージャースタンドの周囲温度が5℃～35℃の範囲であることを確認して充電してください故障の原因になります。

・高温になる場所（火のそば、ストーブのそば、炎天下など）や引火性ガスの発生するような場所での充電・放電はしないでください。

・火の中に投入したり、過熱しないでください。

・釘を刺したり、ハンマーで叩いたり、踏みつけたりしないでください。

・直接ハンダ付けしないでください。

・分解や改造はしないでください。

・充電の際には専用の充電器を使用してください。

・夏期、閉め切った車内に放置するなど極端な高温や低温環境では電池の容量が低下し利用できる時間が短くなります。

・水、雨水、海水などにつけたり、濡らしたまま放置しないでください。

・電池パックを使用しない場合には、トランシーバー本体から外して湿気の少ない場所で保管してください。

取扱い上のお願い

・電源端子・充電端子をときどき乾いた綿棒などで、清掃してください。汚れていると接触不良の原因となる場合があります。

・トランシーバー本体の清掃の際は、糸くずのつかない乾いた柔らかい布で汚れを落としてください。

・トランシーバーを直接、洗剤の溶液の中に入れるようなことは絶対にしないでください。

・洗剤、溶剤、アルコールなどでトランシーバーを清掃すると、トランシーバーを傷つけたり破損したりすることがあります。

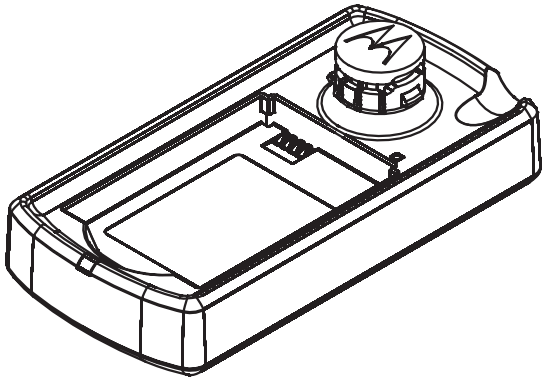
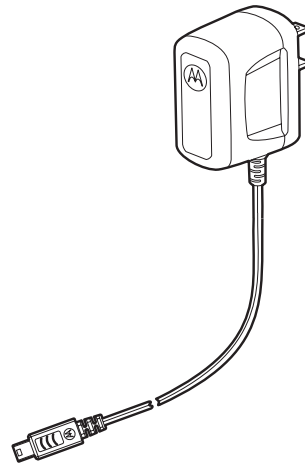
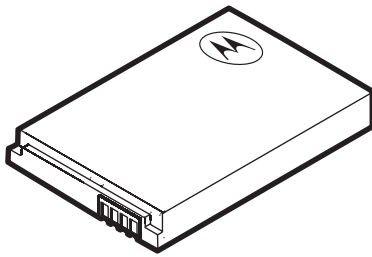
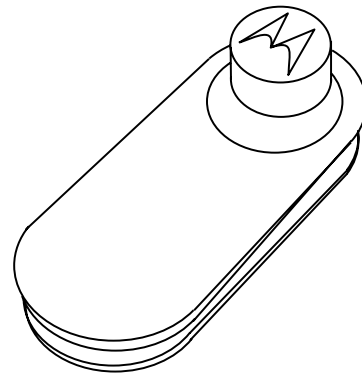
電波法上のご注意

・このトランシーバーは国内専用モデルです。海外では使用できません。

・他人の通話を聞いて、これを漏らしたり悪用することは電波法令で禁じられています。

・本機は電波法令で定められた技術基準に適合（合格）していますので、分解や改造は電波法令で禁じられています。

・無線機の使用を禁止されている場所（航空機内・空港敷地内など）では使用しないでください。

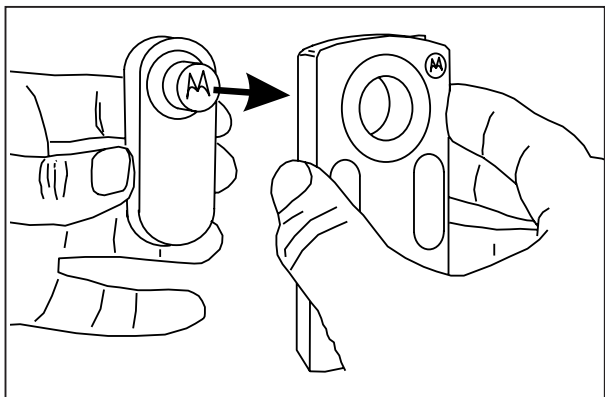
付属品

シングル充電器

AC アダプター

電池パック

ベルトクリップ

その他

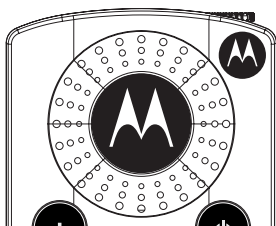
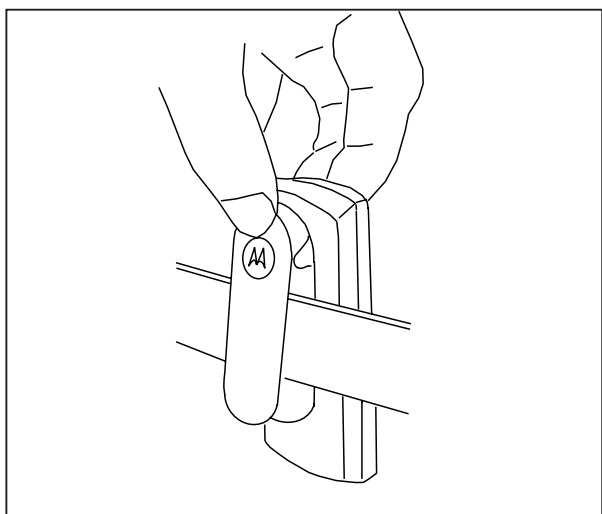
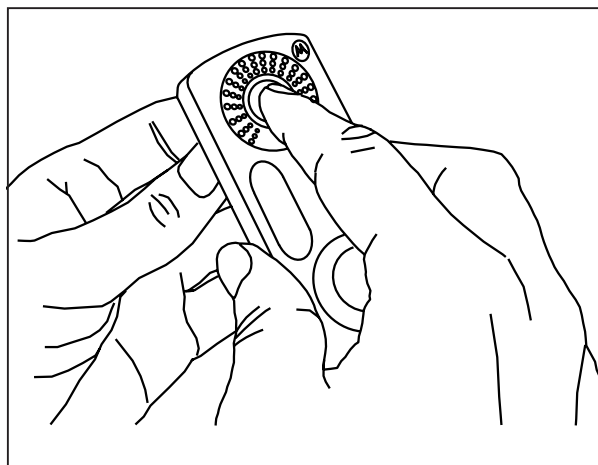
クイックマニュアル

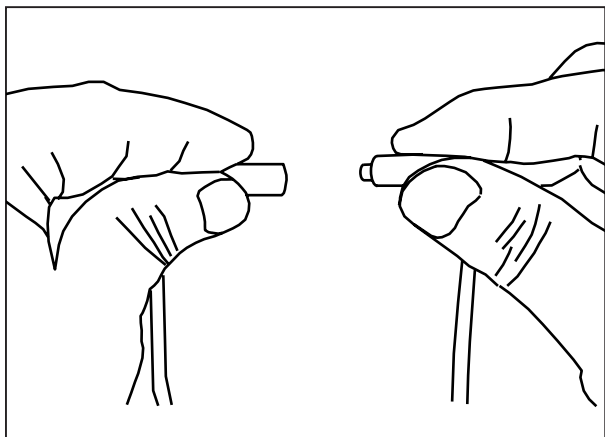
安全上のご注意 / 保証書

ベルトクリップの使いかた（付属品）

1. ベルトクリップを CL1K に取り付けます。

注意

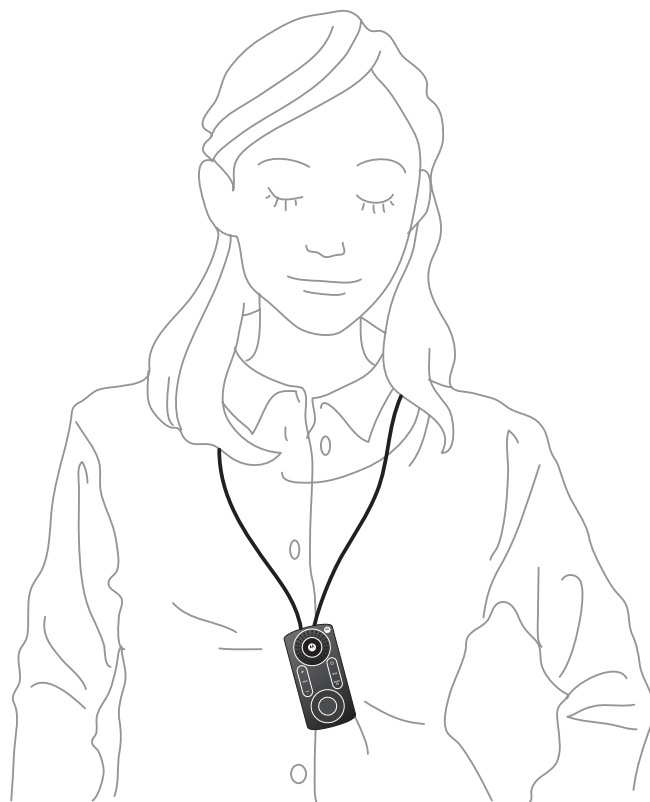
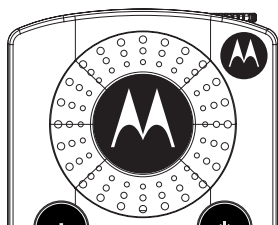
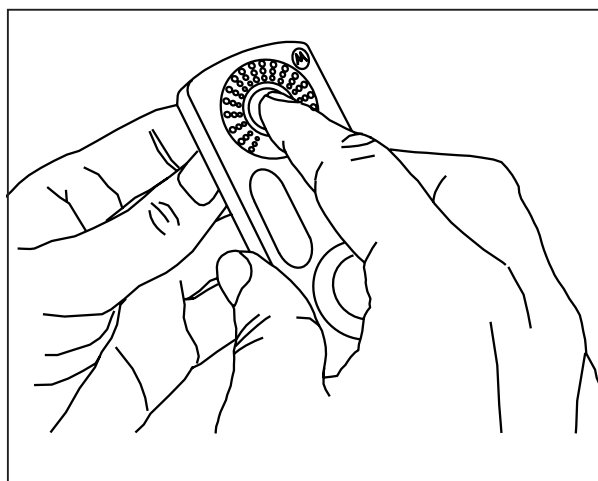
ベルトクリップの取り付けは、必ず CL1K の Ⓜロゴとアクセサリーの Ⓜロゴの向きを一致させ、「カチッ」と音がするまで確実に取り付けてください。

逆さに取り付けるとロックされず、CL1K を落として破損することがあります。

2. ベルトクリップの 先端を指で押し、ベルトへ確実に取り付けてください。

3. ベルトクリップの M マークの部分を指で押し、ベルトクリップを外します。

ネックストラップの使いかた（アクセサリー）

1. セーフティーロックを確実に差し込んで首にかけてください。

2. ネックストラップに CL1K を取り付けください。

注 意

ネックストラップの取り付けは、 必ず CL1K のⓂロゴとアクセサリーのⓂロゴの向きを一致させ、「カチッ」と音がするまで確実に取り付けてください。

逆さに取り付けるとロックされず、 CL1K を落として破損することがあります。

3. ベルトクリップの M マークの部分を指で押し、ネックストラップを外します。

電池パックの使いかた（付属品）

電池パックは，繰り返し使用できる充電可能なリチウムイオン電池を使用しております.

- 電池パックは消耗品です．充放電を繰り返すと使用できる時間が徐々に短くなります.
- CL1K に電池パックを取り付けた状態で長期間放置すると電池パックの劣化を早める原因になります.
- 長期間放置 / 保管するときは，必ず CL1K から電池パックを外してください．また，過放電を防止するために，半年に 1 回程度の充電（50% 程度）を行ってください.
- 高温の場所で保管すると，劣化の進行を早めることがあります．なるべく低温状態で保管してください.
- 電池パックを落としたり衝撃を与えると，破損の原因になります.
- 不要になった電池パックは、大変危険ですので分解しないでください。端子にテープなどを貼り付けて絶縁し、有限責任中間法人 JBRC に加盟したリサイクル協力店または弊社へお持ちください。

使用時間の目安

電池パックの残量確認は電源を入れた状態で **INFO** を短く押すと、アイコンと音声ガイドでお知らせします。

使用できる時間の目安※は次のとおりです。

リチウムイオン電池パック（BT60）

内蔵スピーカー使用時 ➠ 約 24 時間

※ 6秒送信、6秒受信、48 秒待ち受けの測定条件。

上記の使用時間は目安です。実際に使用できる時間は、使い方や周囲の温度などによって異なります。

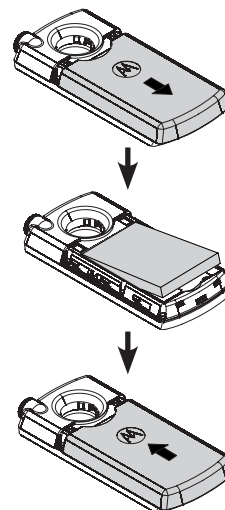
アイコン	音声ガイド
	満充電です
	十分使えます
	残りわずかです
	すぐに充電してください

シングル充電器の使いかた（付属品）

1. 電池パック（BT60）を取り付ける (図 1)

・裏面のフタをスライドして、フタを外します。

・電池パックを溝の部分に挿入します。

・CL1K にフタを載せスライドし、元の状態に戻します。

2. 電池パックを充電する

・チャージャースタンドに AC アダプターを接続します (図 2)。

・CL1K の電源を切ります。

・上に向けた状態（キーが上面にある状態）で、「カチッ」と音がするまで確実にチャージャースタンドへ差し込みます (図 2)。
電池パックのみ充電する場合は、チャージャースタンドの溝の部分に電池パックを挿入します (図 3)。

・電池パックが充電されるとチャージャースタンドの LED インジケーターが赤色に点灯します。
充電時間は、空の状態で最大約5時間です（充電時間は電池パックの残量によって変化します）。
充電が終了すると緑色に点灯しますので、チャージャースタンドのロゴ (M) を押しながら CL1K を手前に引き取り外します（図 4）。

- CL1K と予備の電池パック両方をセットした場合は、CL1K を充電した後に予備の電池パックを充電します。
- 電池パックを使用するときは、必ず充電してください。
- 長時間使用しない場合は、電池パックを取り外しておいてください。
- 正しい充電を行っても使用できる時間が短くなってきた場合は電池パックの寿命です。新しい電池パックをお買い求めください。

図 1：電池パックの入れ方

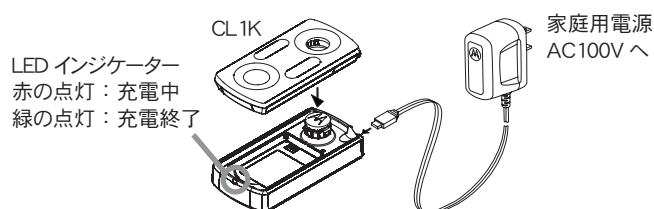



図 2：チャージャースタンドと AC アダプターの接続

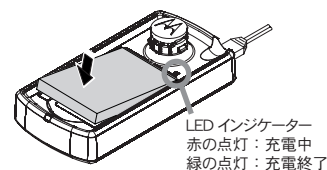



図 3：電池パックのみ充電する方法

ロゴ (M) を押しながら CL1K を手前に引き取り外す

図 4：CL1K の外し方

各部の説明

アンテナ（内蔵型）

マイクロホン

音量調節キー（＋）
短押し：押すたびに音量が大きくなる
長押し：連続で音量が大きくなる

INFO キー
チャンネルとバッテリー電池パックの
残量を表示する

音量調節キー（－）
短押し：押すたびに音量が小さくなる
長押し：連続で音量が小さくなる

ディスプレイ

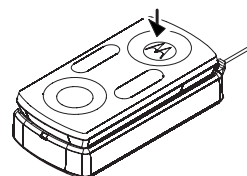
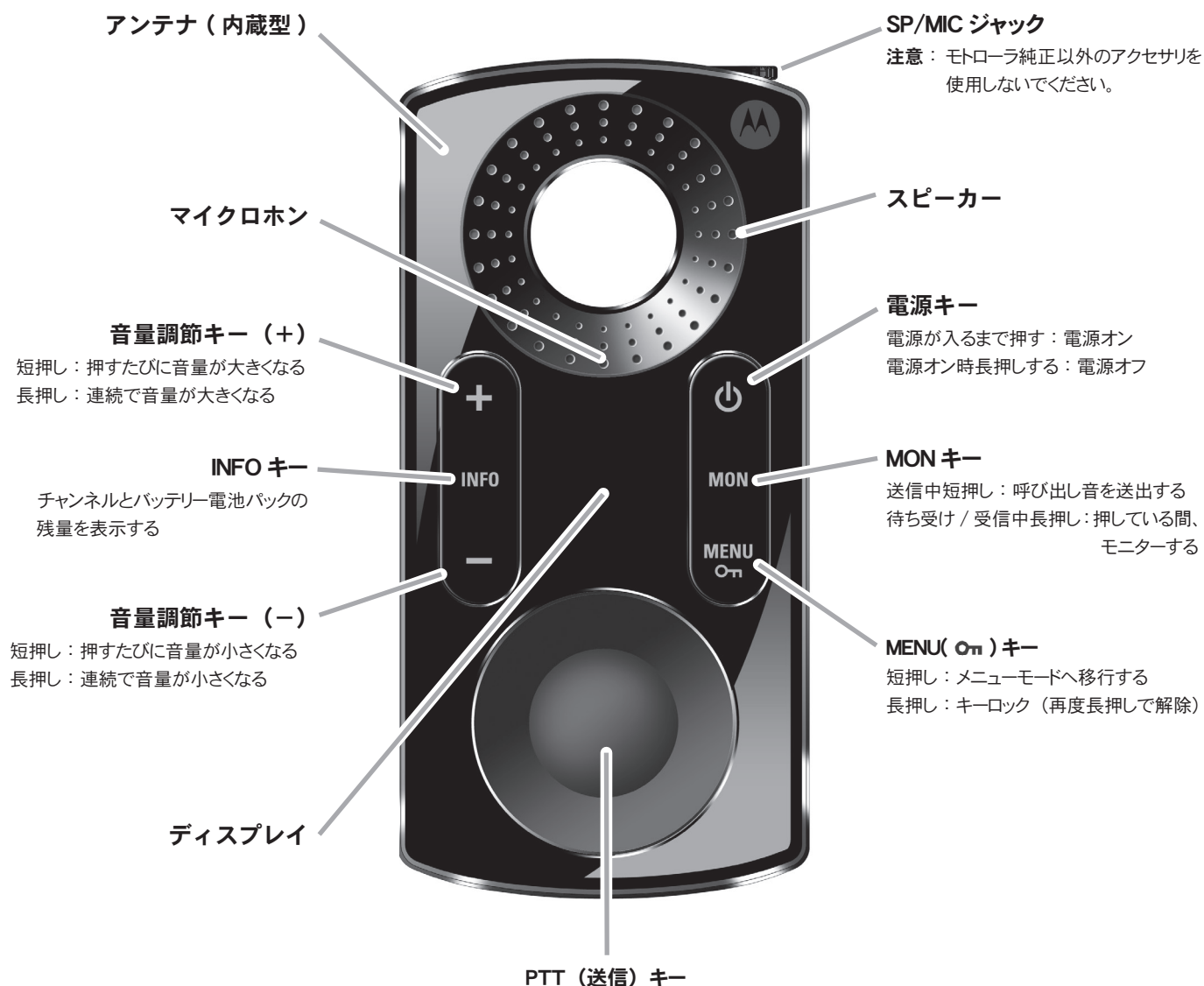
SP/MIC ジャック
注意： モトローラ純正以外のアクセサリを
使用しないでください。

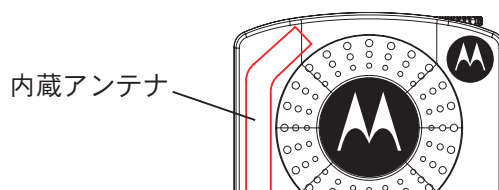
スピーカー

電源キー
電源が入るまで押す：電源オン
電源オン時長押しする：電源オフ

MON キー
送信中短押し：呼び出し音を送出する
待ち受け / 受信中長押し：押している間、
モニターする

MENU(⊶)キー
短押し：メニューモードへ移行する
長押し：キーロック（再度長押しで解除）

PTT（送信）キー

- ネックストラップを使用するなどして、トランシーバーを身体の上に装着すると、体の影響をうけにくくなり、相手と離れていても良好に通話しやすくなります。
- 本トランシーバーは内蔵アンテナを使用しており、正面から見てスピーカーの左側に位置しています。この部分を手で覆って通話しないでください。通話品質が劣化します。

内蔵アンテナ

基本的な使いかた

① 電源を入れる

電源が入るまで⏻を押します。

・「ピロッ」と電子音が鳴り、5 秒間現在のチャンネルを表示します。
・もう一度⏻を長く押すと電源が切れます。

② 音量を調節する

＋または－を押して、音量レベルを調節します。

(OFF)～（中）～（大）：12 段階設定可能

音量は音声を受信しながら調節してください。

② チャンネルをあわせる

MENU を 1 回押し、次に＋または－を押して、相手と同じチャンネルに合わせます。

・5 秒間点滅中にチャンネルを合わせます。その後チャンネルの表示は消えます。
・チャンネルの確認は **INFO** を短く押します。

③ 押しながら話す

PTT キーを押しながらマイクに向かって話します。

・送信の初めにディスプレイへ がアニメーション表示されます。
・PTT キーを放すと、待ち受けになり現在のチャンネルを表示します。
　相手の音声を受信すると がアニメーション表示されます。
・マイクから口を 5cm 程度離してお話しください。

待ち受け中、CL1K が動作していることをアニメーション表示でお知らせします。

→ 0.6 秒間表示した後、7 秒間消灯を繰り返す。

- 工場出荷時で選択できるチャンネルは、合計 20 チャンネル（1 ～ 20）です。
  別途、CL1K 設定ソフトウェアを使用すると中継機能のチャンネル拡張や各機能を設定することができます。
- 連続して送信できる時間は3分以内です。
  3分間連続して送信し続けると、送信は自動的に停止します。
  なお、送信が停止する 30 秒前になると、ディスプレイに数字でカウントダウン表示され、送信が停止する 10 秒前には、「ピピピッ」と警告音が鳴ります。
  また、送信が停止した場合、その後の2秒間は送信キーを押しても「プーップーップーッ・・・」と警告音が鳴り送信できません。

- 相手の信号を受信しているときは、送信できません。
  ディスプレイに または が表示されている時は、送信キーを押しても「プーップーップーッ・・・」と警告音が鳴るだけで、送信できません。
- ヘッドセットを接続する時は音量を下げてから接続してください。
  －を押して に設定してから接続してください。音量を上げた状態で接続すると聴力障害の原因になったり、ヘッドセットを破損するすることがあります。

メニュー一覧

メニューは良く使用する機能を集約し、 簡単な設定で機能を使用することができます。

メニュー設定は下記の手順で行ってください。

1. を押して電源を入れます。
2. **MENU** を短く押します (短く押すごとに 6 種類のメニューを選択することができます)。
3. **+**または**ー**を短く押して、 設定値を選択します。
4. **PTT** スイッチを短く押します (チャンネル設定時は押す必要ありません)。

メニュー	表示	機能説明
チャンネル		通話チャンネルを設定します。 相手と同じチャンネルに合わせます。 表示は 15 チャンネルの表示例になります。
スキャン	ON OFF	スキャン機能を ON/OFF します。 自動でチャンネルを切り替えながら信号を探す機能です。 信号を受信するとスキャンが一時的に停止し、 信号がなくなりしばらくするとスキャンを開始します。
スケルチ		スケルチのレベルを 4 段階設定可能です。 信号が入感していない時に出る耳障りなノイズ「ザー」 音を消すことができます。 表示は SQL 3の表示例になります。
VOX	ON OFF	VOX 機能を ON/OFF します。 PTT スイッチを押さなくても、 音声により送信 / 待ち受けを自動的に切り替えることができます。 話すと送信、 話をやめると待ち受けの状態に戻ります。
音声ガイド	ON OFF	音声ガイド機能を ON/OFF します。 チャンネル設定を音声で読み上げます。
オートパワーオフ	ON OFF	オートパワーオフ機能を ON/OFF します。 2時間何も操作しないと電源の切り忘れとみなし、 自動的に電源を OFF にします。 1分前に「ピピッ」と警告音が鳴り、 電源が切れます。

CL1K 設定ソフトウェア

CL1K 設定ソフトウェアは一度設定するとあまり設定しない頻度が低い機能などを集約し、PC を接続して専用ソフトで設定を行います。

CL1K 設定ソフトウェアで設定できる機能

CL1K 設定ソフトウェアは、無線機情報、機能データー、チャンネルの詳細設定、スキャン設定などの設定を行うことができます。

◎無線機情報は、現在接続されているトランシーバーの情報を読み出して表示します。

メニュー	情報	表示説明
無線機情報	ファームウェアバージョン	ファームウェアのバージョン番号を表示します。
	モデル番号	トランシーバーのモデル番号（CL1K）を表示します。
	周波数帯	利用可能な周波数範囲を表示します（周波数情報は編集不可能）。
	最大チャンネル数	登録されている最大チャンネル数の情報を表示します。

◎機能データーは、現在接続されているトランシーバーの設定情報を読み出して表示し設定することができます。

メニュー	機能	機能説明	設定可能値（情報）	初期値
機能データー	キーパッドロック	PTT と電源、音量ボタンを除くキーパッドがロック	OFF/ON	ON
	キーパッドトーン	ボタンを押したときのビープ音を ON/OFF	OFF/ON	ON
	オートパワーオフ	120 分間操作しなかったとき自動的に電源が切れる機能の ON/OFF	OFF/ON	ON
	バッテリーセーブ	バッテリーセーブの ON/OFF（常に ON に設定）	OFF/ON	ON
	工場出荷時リセット	オールリセットをトランシーバー側で操作するかを ON/OFF	OFF/ON	ON
	スキャン	事前登録したチャンネルをスキャンするかを ON/OFF	OFF/ON	ON
	ＰＴＴホールド機能	PTT を一度押すと手を放しても送信を続ける機能のの ON/OFF	OFF/ON	OFF
	自動チャンネル選択	事前登録したチャンネル内をスキャンし空チャンネルで通話する機能を ON/OFF（相手も ON に設定必要）	OFF/ON	OFF
	音声ガイド	音声ガイド機能の ON/OFF	OFF/ON	OFF
	スケルチレベル	スケルチレベルの調整	1, 2, 3, 4	3
	呼び出し音送出	呼び出し音の種類や機能を設定	OFF, 1, 2, 3, 4, 5	1
	ワンタッチ音量変更	外部オーディオアクセサリーを接続時トランシーバーの PTT に音量変更機能を設定	PTT, 消音 , +Level3, -Level3	PTT
	ＰＴＴディレイ	PTT を放したとき「ザー」という雑音を軽減する（相手も ON に設定必要）	180/240	180
	VOX(iVOX) レベル	VOX の感度を設定	OFF, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9	1
	VOX(iVOX) 遅延時間	話をやめてから待ち受けに戻るまでの時間を設定	0.1 ~ 5.0 秒	0.5
	スキャン保留時間	スキャン一時停止後、再スキャンするまでの保留時間設定	1 ~ 10 秒	5
	マイク切り替え	外部オーディオアクセサリーを接続した時のマイク動作切替	外部のみ / 両マイク	外部のみ
	待ち受け画面	待ち受け表示 (小さなドット) の ON/OFF	OFF/ON	ON
	送受信アニメーション	送受信状態表示のアニメーション表示を ON/OFF	OFF/ON	ON
	音量調節キーアニメーション	音量調節のアニメーション表示を ON/OFF	OFF/ON	ON
	キーロックアニメーション	キーロックのアニメーション表示を ON/OFF	OFF/ON	ON
	Info モードアニメーション	Info モードのチャンネル番号／バッテリー残量表示を ON/OFF	OFF/ON	ON
	電源オン・オフアニメーション	電源オン・オフのアニメーション表示を ON/OFF	OFF/ON	ON
	メニューモードアニメーション	メニューモードのアニメーション表示を ON/OFF	OFF/ON	ON
	キーパッド・バックライト	キーパッドのバックライトを ON/OFF	OFF/ON	ON
	コンパンダー機能	背景の雑音を低減する（相手も ON に設定必要）	OFF/ON	OFF

◎チャンネル設定は、チャンネル以外にチャンネルに関係する各機能を設定することができます。

メニュー	機能		機能説明	設定可能値（情報）	初期値
チャンネル設定 / さらに編集	チャンネル	名前	この項目は編集できません	ー	ー
		チャンネルの表示	スキップにするとトランシーバー上で選択できなくなる	表示・スキップ	表示
		中継器対応	ON に設定すると周波数の項目に中継用の周波数が追加されます	OFF/ON	OFF
		送信ビープ音	PTT をしたときにビープ音がなります	OFF/ON	ON
		受信専用モード	ON に設定すると受信専用になり送信できません	OFF/ON	OFF
	受信	周波数	メモリーチャンネル割り当てる周波数を選択します	01-422.05000 ～ 20-422.30000	ー
		トーン	メモリーチャンネルで使用する CTCSS か DCS を設定します	トーン設定無し CTCSS: 1-67.0Hz ~ 38-250.3Hz DCS: 39-DPL023 ~ 121-DPL645	トーン設定無し
	送信	周波数	受信と同様	受信と同様	ー
		トーン	受信と同様	受信と同様	受信と同様

◎スキャン設定は、スキャンしたいチャンネルを設定することができます。

メニュー	機能	機能説明	設定可能値（情報）	初期値
スキャン設定	スキャンリスト	スキャンリスト一覧からスキャンしたいチャンネルを設定し、機能データーの「スキャン」を ON にすることで有効になります	CHAN01 ～ CHAN20	ー

ホーム画面の説明

メニューの切り替え
ホームをクリックするとホーム画面（下図）になります。
トランシーバーをクリックすると設定画面になります。

Readme
[?] をクリックするとと Readme が表示されます。
このソフトウエアーをお使いになる前に必ずお読みください。

セッション残り期間
CL1K 設定ソフトウェアの操作時間は 60 分以内です。
60 分を超えると設定内容は無効になります。

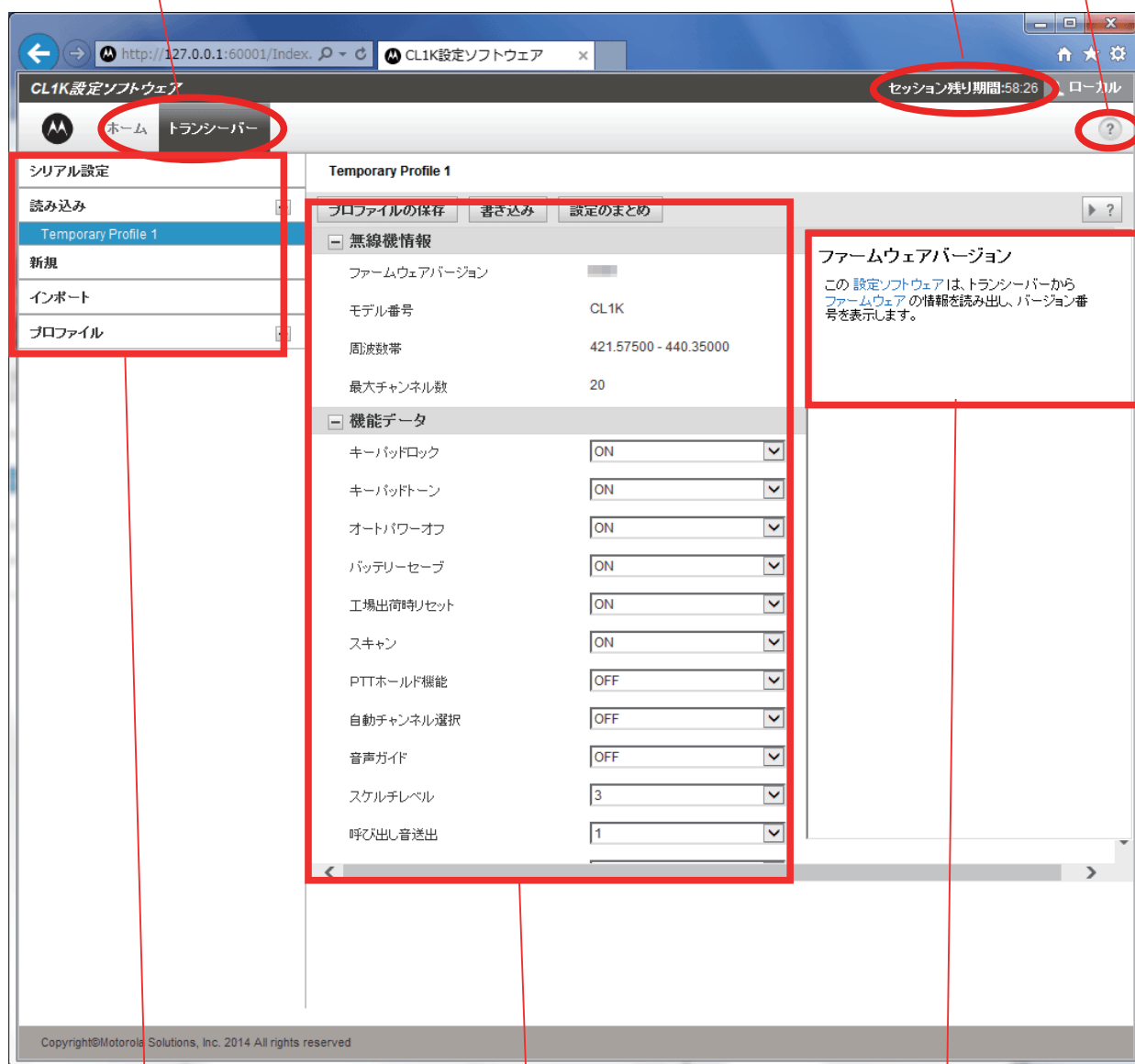
言語の切り替え
押すと日本語（初期値）と英語に切り替えることができます。

ヘルプ表示
ヘルプ表示を OFF にすると操作画面右側に表示されている、
ヘルプを非表示にすることができます。

トランシーバー画面の説明

メニューの切り替え
トランシーバーをクリックすると設定画面（下図）になります。
ホームをクリックするとホーム画面になります。

Readme
[?] を押すと Readme が表示されます。
このソフトウエアーをお使いになる前に必ずお読みください。

セッション残り期間
CL1K 設定ソフトウェアの操作時間は 60 分以内です。
60 分を超えると設定内容は無効になります。

メニューボタン

設定画面
画面をスクロールすると機能データ / チャンネル設定 / スキャン設定画面が現れます。

ヘルプ表示
ホームのヘルプ表示を ON にするとヘルプが表示されます。

インストール方法

■パソコンの動作環境

●対応 OS (オペレーティングシステム)

Microsoft Windows 7 以降の OS

● CPU

OS のシステム要件を満たす性能を持つ CPU

● RAM（システムメモリー）

OS のシステム要件を満たす性能を持つ RAM

● HDD（ハードディスク）

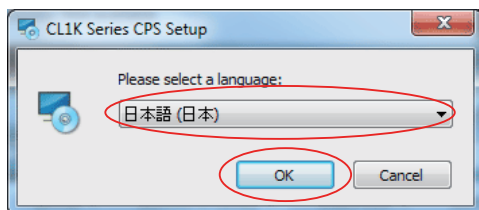
OS が動作するために必要な空き容量とは別に、プログラムを実行するために約 10MByte 以上の空き容量が必要です。

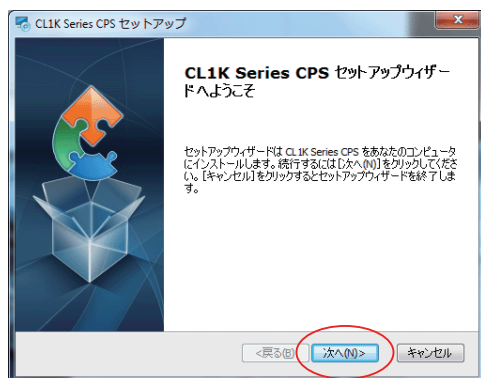
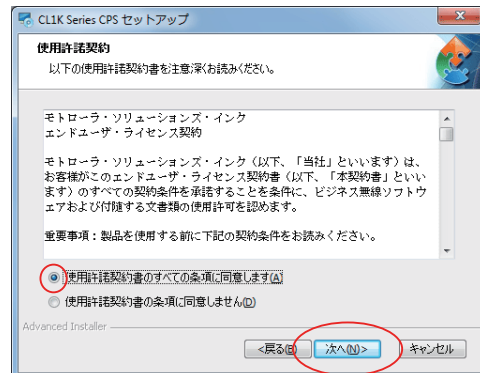
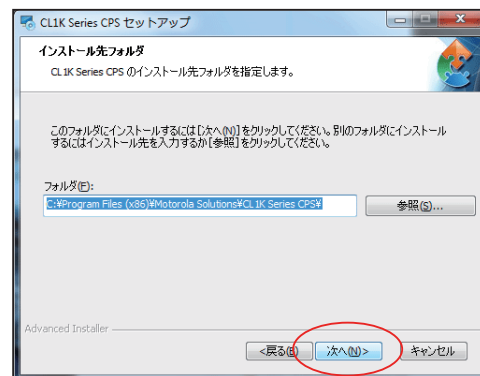
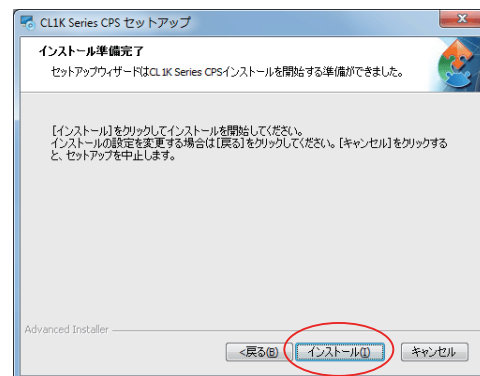
● PORT（ポート）

USB Serial Port（USB1.1/USB2.0）

■ CL1K 設定ソフトウェアのインストール方法

CL1K 設定ソフトウェアのインストールは下記の手順で行ってください。

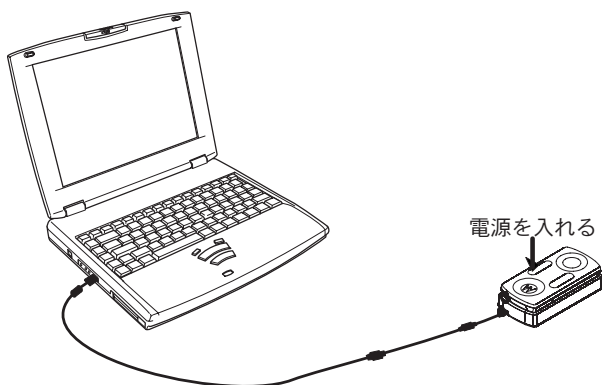
1. 弊社ホームページより（http://www.motorolasolutions.com/JP）から CL1K の CL1K 設定ソフトウェアをダウンロードします。
2. 「SETUP.exe」をダブルクリックします。
3. 言語を“日本語 (日本)”に設定し「OK」を押します。

4. 「次へ (N)>」をクリックし、セットアップを開始します。

インストールを開始するとき、Windows のセキュリティの警告が表示された場合には、「このファイル開く前に常に警告する」のチェックを外してから、「開く」ボタンをクリックしてください。

5. 「使用許諾契約書のすべての条項に同意します」にチェックを入れ「次へ >」をクリックします。

6. 「次へ >」をクリックします。

7. 「インストール」をクリックします。

8. CL1K 設定ソフトウェアのインストールが完了します。「完了 (F)」をクリックします。

CL1K 設定ソフトウェアの使いかた

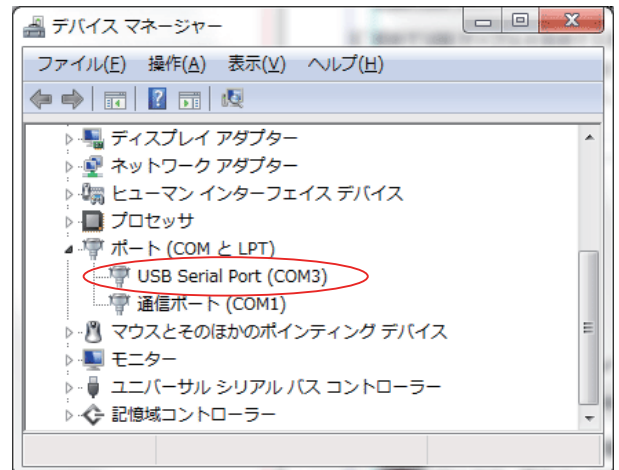
① CL1K とパソコンの接続

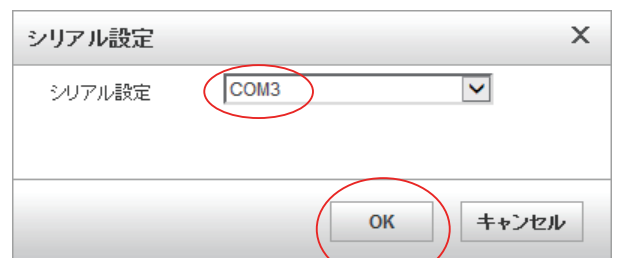
1. 下図を参考にパソコンとシングル充電器を USB ケーブル HKLN4280A で接続します。
2. CPS.exe をダブルクリックします。
   CL1K 設定ソフトウェアの画面が立ち上がります。

3. 初めて USB ケーブルを接続する場合は、パソコンにトライバがインストールされます。
4. シングル充電器に CL1K を接続し、CL1K の電源を入れます。

USB ケーブル HKLN4280A で接続する

パソコンから CL1K へ電源が供給されませんので、電池パックは十分充電したものをお使いください。

②シリアル設定（COM Port）

1. Windows のスタートメニューから「コントロールパネル」⇒「ハードウエアとサウンド」⇒「デバイスマネージャー」を開き Ports(COM & LPT) を確認し USB Serial Port の COM を確認します。

2. CL1K 設定ソフトウェアの「トランシーバー」⇒「COM ポート選択」を選択します。

3. ダイアログボックスに確認した COM Port を設定し「OK」スリックします。

CL1K 設定ソフトウェアの使いかた

③データ読み込み（トランシーバー→パソコン）

1.「読み込み」を選択します。

2. トランシーバーのデータがパソコンに書き込まれ、
無線機情報や設定データが表示されます。

CL1K設定ソフトウェア　セッション残り期間:59:45　ローカル

ホーム　トランシーバー

シリアル設定
読み込み
Temporary Profile 1
新規
インポート
プロファイル

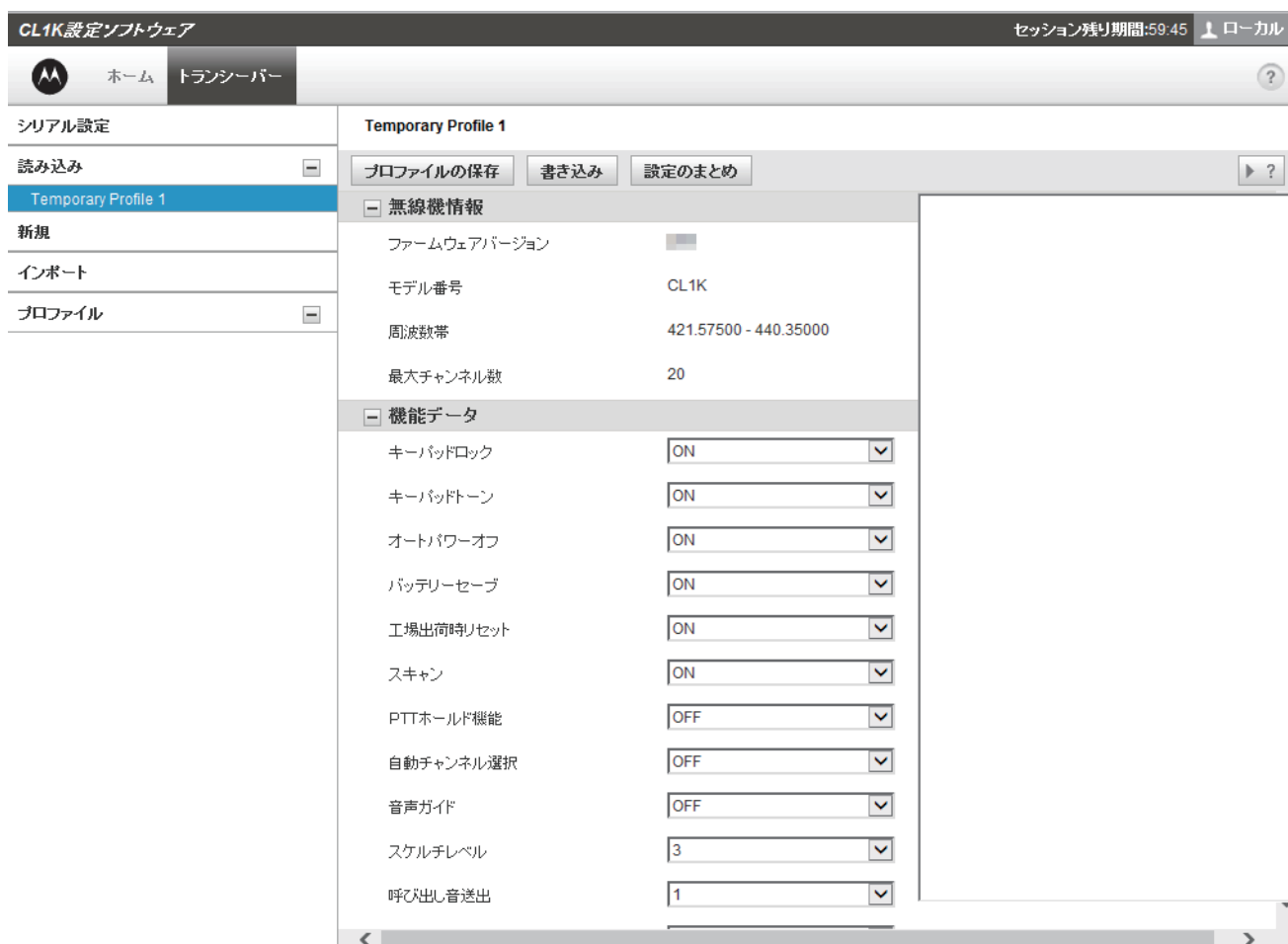
Temporary Profile 1

プロファイルの保存　書き込み　設定のまとめ

無線機情報

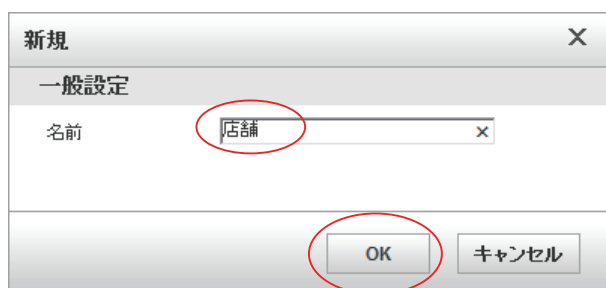
ファームウェアバージョン	
モデル番号	CL1K
周波数帯	421.57500 - 440.35000
最大チャンネル数	20

機能データ

キーパッドロック	ON
キーパッドトーン	ON
オートパワーオフ	ON
バッテリーセーブ	ON
工場出荷時リセット	ON
スキャン	ON
PTTホールド機能	OFF
自動チャンネル選択	OFF
音声ガイド	OFF
スケルチレベル	3
呼び出し音送出	1

④名前を付ける（新規）

1. 「新規」を選択します。

2. ダイアログボックスが表示され、ファイル名を入力します。
例として、本社の設定や店舗の設定など各部署に合った設定のフォルダー名を新規登録することができます。

購入した直後に工場出荷時の状態のものを「⑦プロファイルの保存」で保存しておくことをお勧めします。

⑤設定する
（機能データ / チャンネル設定 / スキャン設定）

1. 「機能データ」を設定します（ページ参照）。
2. 機能データをスクロールすると「チャンネル設定」画面が現れます。チャンネル設定が必要な場合は設定してください（ページ参照）。
3. チャンネル設定をスクロールすると「スキャン設定」画面が現れます。スキャン設定が必要な場合は設定してください（ページ参照）。

⑥プロファイルの保存（パソコンへの保存）

1. 「プロファイルの保存」を選択します。

2. パソコンに保存されます。
3. 保存されるとプロファイルに表示されます。
4. プロファイルを選択すると、保存された内容が設定表示画面に表示されます。

⑦データ書き込み（パソコン→トランシーバー）

1. 「書き込み」を選択します。

2. パソコンからトランシーバーへデータが転送され、作業は終了します。

その他の設定

■エキスポート

例えば東京店舗の CL1K 設定を大阪店舗でも使用したいときなど、プログラムをエキスポートして配布することができます。

1. エキスポートしたいプロファイルを選択します。

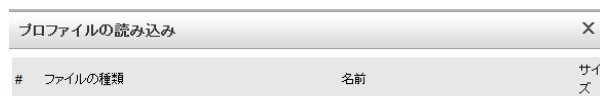
2. 「エキスポート」クリックします。

3. ダイアログボックスが表示され、ファイル名を入力し、エキスポートが完了します。

■インポート

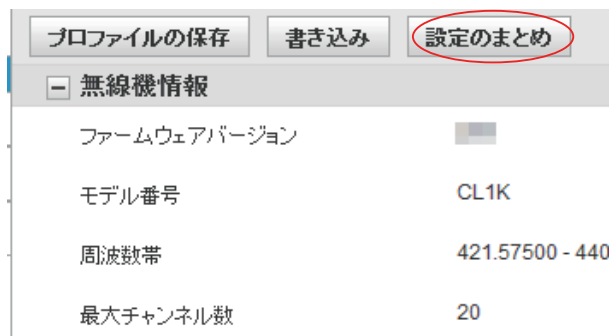
例えば配布されたプログラムデータをインポートすることで東京店舗の CL1K の設定を大阪店舗でも使用することができます。

1. 「インポート」を選択します。

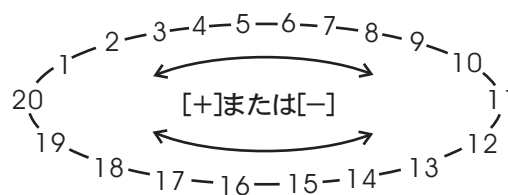
2. ダイアログボックスが表示され、ファイル名を入力します。

3. 「ファイルの選択」をクリックし、インポートしたいファイルを選択します。
4. 「インポート」を押してインポートが完了します。

■設定のまとめ

「設定のまとめ」をクリックすると設定内容が一覧で表示されます。

チャンネルに関係する設定

CL1K 本体で出来る設定

■チャンネルの設定

1. 電源が入っている状態で、**MENU** を1回短く押します。
2. [**＋**] または [**－**] を短く押します。
   現在のチャンネルが表示された後、5秒間点滅しその間に相手と同じチャンネルを設定します。
   右図は 15 チャンネルの表示例になります。

工場出荷時で選択できるチャンネルは、合計 20 チャンネル（1 ～ 20）です。
別途、CL1K 設定ソフトウェアを使用すると中継機能のチャンネル拡張をすることができます（??ページ参照）。

設定ソフトウェアによる設定

■チャンネルの編集

1. CL1K 設定ソフトウェアの機能データから下へスクロールするとスキャン設定が現れます。

⊟ チャンネル設定

☐	名称	編集	周波数	トーン
☐	1	さらに編集	1-422.05000	トーン設定無し
☐	2	さらに編集	2-422.06250	トーン設定無し
☐	3	さらに編集	3-422.07500	トーン設定無し
☐	4	さらに編集	4-422.08750	トーン設定無し
☐	5	さらに編集	5-422.10000	トーン設定無し
☐	6	さらに編集	6-422.11250	トーン設定無し
☐	7	さらに編集	7-422.12500	トーン設定無し
☐	8	さらに編集	8-422.13750	トーン設定無し
☐	9	さらに編集	9-422.15000	トーン設定無し
☐	10	さらに編集	10-422.16250	トーン設定無し
☐	11	さらに編集	11-422.17500	トーン設定無し
☐	12	さらに編集	12-422.20000	トーン設定無し
☐	13	さらに編集	13-422.21250	トーン設定無し
☐	14	さらに編集	14-422.22500	トーン設定無し
☐	15	さらに編集	15-422.23750	トーン設定無し
☐	16	さらに編集	16-422.25000	トーン設定無し
☐	17	さらに編集	17-422.26250	トーン設定無し
☐	18	さらに編集	18-422.27500	トーン設定無し
☐	19	さらに編集	19-422.28750	トーン設定無し
☐	20	さらに編集	20-422.30000	トーン設定無し

追加　消去

次ページへ続く

チャンネルに関係する設定

設定ソフトウェアによる設定

2. 使用しないチャンネルを消去する場合は、左側の
□にレ点を入れて、「消去」をクリックします。

⊟ チャンネル設定

□	名称	編集	周波数	トーン
□	1	さらに編集	1-422.05000	トーン設定無し
□	2	さらに編集	2-422.06250	トーン設定無し
□	3	さらに編集	3-422.07500	トーン設定無し
□	4	さらに編集	4-422.08750	トーン設定無し
□	5	さらに編集	5-422.10000	トーン設定無し
□	6	さらに編集	6-422.11250	トーン設定無し
□	7	さらに編集	7-422.12500	トーン設定無し
□	8	さらに編集	8-422.13750	トーン設定無し
□	9	さらに編集	9-422.15000	トーン設定無し
□	10	さらに編集	10-422.16250	トーン設定無し
☑	11	さらに編集	11-422.17500	トーン設定無し
☑	12	さらに編集	12-422.20000	トーン設定無し
☑	13	さらに編集	13-422.21250	トーン設定無し
☑	14	さらに編集	14-422.22500	トーン設定無し
☑	15	さらに編集	15-422.23750	トーン設定無し
☑	16	さらに編集	16-422.25000	トーン設定無し
☑	17	さらに編集	17-422.26250	トーン設定無し
☑	18	さらに編集	18-422.27500	トーン設定無し
☑	19	さらに編集	19-422.28750	トーン設定無し
☑	20	さらに編集	20-422.30000	トーン設定無し

追加 消去

チャンネルに関係する設定

設定ソフトウェアによる設定

■各チャンネルに詳細設定を行う編集

チャンネルごとに各種設定を行うことができます。

アイテムセッティング / タイトル		機能説明	バリュー	初期値
チャンネル	名前	チャンネル番号	–	–
	チャンネル表示設定	トランシーバー上で表示/非表示（スキップ）を設定することができます。スキップにした場合、スキャンリストからも削除されます。	表示・スキップ	表示
	中継器対応	ON に設定すると、中継器対応になり、周波数の設定欄が中継器の周波数に移行	OFF/ON	OFF
	送信ビープ	ON に設定すると、送信を始めた際に電子音が鳴る。 VOX 機能を使用する時など送信状態になったことを確認可能。	OFF/ON	OFF
	受信専用モード	ON に設定すると、PTT を押すとチャンネル番号が点滅し、送信されない。	OFF/ON	OFF
受信	周波数	指定のチャンネルに受信周波数を設定	422.05000--422.30000	
	トーン	指定のトーンを設定する	トーン設定無し / CTCSS （1-67.0Hz ～ 38-250.3Hz） DCS （39-DPL023 ～ 121-DPL645）	トーン設定無し
送信	周波数	指定のチャンネルに送信周波数を設定		
	トーン			トーン設定無し

1. チャンネル設定の「さらに編集」をクリックすると、
   編集画面が表示されます。

2. 編集作業が終了したら「OK」をクリックします。

スキャンに関係する設定

自動でチャンネルを切り替えながら信号を探す機能です。
信号を受信するとスキャンが一時的に停止し、信号がなくなりしばらくするとスキャンを開始します。

CL1K 本体で出来る設定

■スキャンを開始する

1. 電源が入っている状態で、**MENU** を 2 回短く押して、を選択します。
2. [＋] または [ー] を短く押して（ON）を選択します。
3. [**PTT**] を押すとスキャンを開始します。

■スキャン方向を変更する

スキャン中に [＋] または [ー] を押す。
スキャン方向を変えることができます。

- 中継機能用チャンネルが追加された場合、中継機能用チャンネルからスキャンを開始すると中継機能用チャンネルのみスキャンします。

■スキャン方向を終了する

1. 電源が入っている状態で、**MENU** を 2 回短く押して、を選択します。
2. [＋] または [ー] を短く押して（OFF）を選択します。
3. [**PTT**] を押すとスキャンを終了します。

設定ソフトウェアによる設定

■スキャン機能を ON/OFF する

スキャン機能を OFF にすると CL1K からスキャン操作ができなくなります。

1. CL1K 設定ソフトウェアの機能データーから「スキャン」を選択します。

2. 設定値を選択します。

OFF	スキャン機能を OFF にします。
ON（初期値）	スキャン機能を ON にします。

3. 設定を編集後、パソコンにデータを保存する場合は「プロファイルの保存」、CL1K へデータを書き込む場合は「書き込み」をクリックします。

スキャンに関係する設定

設定ソフトウェアによる設定

■スキャン保留時間を設定する

受信信号があり、スキャンが一時停止したのち、通話終了後何秒後にスキャンを開始するかを設定する機能です。

1. CL1K 設定ソフトウェアの機能データーから「スキャン保留時間」を選択します。

スキャン	ON
PTTホールド機能	OFF
自動チャンネル選択	OFF
音声ガイド	OFF
スケルチレベル	3
呼び出し音送出	1
ワンタッチ音量変更	PTT
PTTディレイ	180
VOX(iVOX)レベル	1
VOX(iVOX)遅延時間	0.5
スキャン保留時間	5

2. 設定値を選択します。

1～5（初期値）～ 10

3. 設定を編集後、パソコンにデータを保存する場合は「プロファイルの保存」、CL1K へデータを書き込む場合は「書き込み」をクリックします。

プロファイルの保存　書き込み　設定のまとめ
機能データ
キーパッドロック　ON

■スキャンしたいチャンネルを設定する

1. CL1K 設定ソフトウェアの機能データから下へスクロールするとスキャン設定が現れます。
2. スキャンしたいチャンネルをスキャンリスト一覧に設定します。
3. □にレ点を入れ「追加＞＞」「＜＜削除」でチャンネルを設定します。
4. 設定を編集後、CL1K へデーターをコピーする場合は「Write to subscriber」をクリックすると CL1K にデーターを書き込み、CL1K の電源が切れ終了します。

スキャン設定

利用可能なチャンネル
☑ CHAN11
□ CHAN12
□ CHAN13
□ CHAN14
□ CHAN15
□ CHAN16
□ CHAN17
□ CHAN18
□ CHAN19
□ CHAN20

追加 >>　<<削除

スキャンリスト一覧
□ CHAN01
□ CHAN02
□ CHAN03
□ CHAN04
□ CHAN05
□ CHAN06
□ CHAN07
□ CHAN08
□ CHAN09
□ CHAN10

スキャンに関係する設定

設定ソフトウェアによる設定

■自動チャンネル選択機能を ON/OFF する

この機能をオンにすると、CL1K に書き込まれたメモリーを自動でスキャンします。条件があった信号を受信した場合、そのチャンネルでスキャンをストップし、通話を開始することができます。

この機能を使用する場合は、相手局も同じメモリーの環境設定を行ってから、お互い自動チャンネル選択機能を ON でい運用してください。

MS-50/80 などは 1 つのトーン設定で全チャンネルをスキャンしますが、CL1K は複数のトーン設定で指定のチャンネルをスキャンできます。このため、他の機種と混在して使用する場合には注意が必要です。

1. CL1K 設定ソフトウェアの機能データーから「自動チャンネル選択」を選択します。

2. 設定値を選択します。

OFF（初期値）	機能を OFF にします。
ON	機能を ON にします。

3. 設定を編集後、パソコンにデータを保存する場合は「プロファイルの保存」、CL1K へデータを書き込む場合は「書き込み」をクリックします。

ノイズに関係する設定（耳障りなノイズを消す）

CL1K 本体で出来る設定

■スケルチレベルを設定する

信号が入感していない時に出る耳障りなノイズ「ザー」音を消すことができます。
スケルチのレベルを 4 段階設定可能です。

- スケルチレベルを上げすぎるとノイズは消えやすくなりますが、弱い電波が入感しなくなることがありますので、必要に応じて調節してください。
- 数字が大きいほどレベルが高くなります。

1. 電源が入っている状態で、**MENU** を 3 回短く押して、を選択する。
2. [**+**] または [**−**] を短く押してレベルを設定する。

   右の表示は SQL 3の表示例になります。

1	スケルチレベル - 小
2	スケルチレベル - 中
3（初期値）	スケルチレベル - 大
4	スケルチレベル - 最大

3. 5秒間放置するか [**PTT**] を押すと設定が完了し、セットメニューの設定が終了する。

設定ソフトウェアによる設定

■スケルチレベルの初期値を設定する

1. CL1K 設定ソフトウェアの機能データーから「スケルチレベル」を選択します。

2. 設定値を選択します。

1, 2, 3, 4, 5

3. 設定を編集後、パソコンにデータを保存する場合は「プロファイルの保存」、CL1K へデータを書き込む場合は「書き込み」をクリックします。

ノイズに関係する設定（耳障りなノイズを消す）

設定ソフトウェアによる設定

■PTTディレイを設定する

相手の信号を受信してから、待ち受け状態になるときに「ザーッ」と出る耳障りなノイズ音をカットして受信します。

スキャンチャンネルを制限すると、元のチャンネルに戻ってくる時間が早くなるので、頭切れの少ない運用をすることが可能です。

1. CL1K 設定ソフトウェアの機能データーから「PTT ディレイ」を選択します。

2. 設定値を選択します。

180（初期値）/240

3. 設定を編集後、パソコンにデータを保存する場合は「プロファイルの保存」、CL1K へデータを書き込む場合は「書き込み」をクリックします。

雑音に関係する設定（背景の雑音を低減する）

設定ソフトウェアによる設定

■コンパンダー機能を設定する

コンパンダー機能の設定を ON/OFF することができます。コンパンダー機能を使用することにより、背景の雑音を低減する効果があります。

この機能を使う場合には、相手のトランシーバーもこの機能を有効にしてください。

1. CL1K 設定ソフトウェアの機能データーから「コンパンダー機能」を選択します。

PTTディレイ	180
VOX(iVOX)レベル	1
VOX(iVOX)遅延時間	0.5
スキャン保留時間	5
マイク切り替え	外部のみ
待ち受け画面	ON
送受信アニメーション	ON
音量調節キーアニメーション	ON
キーロックアニメーション	ON
Infoモードアニメーション	ON
電源オン・オフアニメーション	ON
メニューモードアニメーション	ON
キーパッド・バックライト	ON
コンパンダー機能	OFF

2. 設定値を選択します。

OFF（初期値）	機能を OFF にします。
ON	機能を ON にします。

3. 設定を編集後、パソコンにデータを保存する場合は「プロファイルの保存」、CL1K へデータを書き込む場合は「書き込み」をクリックします。

VOX に関係する設定

CL1K 本体で出来る設定

PTT スイッチを押さなくても、音声により送信 / 待ち受けを自動的に切り替えることができます。

話すと送信、話をやめると待ち受けの状態に戻ります。

VOX 機能を ON/OFF します。

- スピーカーから音が出ているときは、VOX 機能は動作しません。
- この VOX 機能は本機単体で使用するもので、オプションの外部マイクロホンでは使用できません。
- キーや音量ツマミを操作したときの振動がマイクに伝わり、誤送信することがあります。
- VOX 感度を上げると周囲の音で誤送信することがあります。
- PTT ホールド機能及び自動マイク感度切り替え機能と同時に使用することはできません。

■ VOX を設定する

1. 電源が入っている状態で、**MENU** を 4 回短く押して、を選択する。
2. [＋] または [−] を短く押して選択する。

OFF	VOX の設定を OFF にします。
ON（初期値）	VOX の設定を ON にします。

3. 5秒間放置するか [**PTT**] を押すと設定が完了し、セットメニューの設定が終了する。

■通話のしかた

本機の内蔵マイクに向けて、話すと送信、話をやめると待ち受けの状態に戻ります。

設定ソフトウェアによる設定

■ VOX レベルを設定する

送信状態になるときの感度を設定します。

周囲の雑音が大きく、話をしていないのに送信状態になる場合は、VOX レベルを下げて（数値を小さくする）ください。

1. CL1K 設定ソフトウェアの機能データーから「VOX レベル」を選択します。

2. 設定値を選択します。

OFF,1(初期値), 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9

3. 設定を編集後、パソコンにデータを保存する場合は「プロファイルの保存」、CL1K へデータを書き込む場合は「書き込み」をクリックします。

VOX に関係する設定

設定ソフトウェアによる設定

■ VOX 遅延時間を設定する

話をやめてから待ち受けの状態に戻るまでの時間を、約 0.1 秒間隔で 0.3 秒～ 3.0 秒の間で設定することができます。

1. CL1K 設定ソフトウェアの機能データーから「VOX 遅延時間」を選択します。

2. 設定値を選択します。

3. 設定を編集後、パソコンにデータを保存する場合は「プロファイルの保存」、CL1K へデータを書き込む場合は「書き込み」をクリックします。

音声ガイドに関係する設定

CL1K 本体で出来る設定

チャンネル設定を音声で読み上げる音声ガイド機能を ON/OFF します。

■音声ガイドを設定する

1. 電源が入っている状態で、**MENU** を 5 回短く押して、を選択する。
2. [＋] または [ー] を短く押して選択する。

OFF	音声ガイドの設定を OFF にします。
ON（初期値）	音声ガイドの設定を ON にします。

3. 5秒間放置するか [**PTT**] を押すと設定が完了し、セットメニューの設定が終了する。

設定ソフトウェアによる設定

■音声ガイド機能を ON/OFF する

1. CL1K 設定ソフトウェアの機能データーから「音声ガイド」を選択します。

2. 設定値を選択します。

OFF（初期値）	機能を OFF にします。
ON	機能を ON にします。

3. 設定を編集後、パソコンにデータを保存する場合は「プロファイルの保存」、CL1K へデータを書き込む場合は「書き込み」をクリックします。

電池の持ち時間を改善する設定

CL1K 本体で出来る設定

■オートパワーオフを設定する

2 時間何も操作しないと電源の切り忘れとみなし、自動的に電源を OFF にします。 1 分前に「ピピッ」と警告音が鳴り、電源が切れます。

1. 電源が入っている状態で、**MENU** を 6 回短く押して、を選択する。
2. [＋] または [ー] を短く押して選択する。

OFF（初期値）	オートパワーオフ機能の設定を OFF にします。
ON	オートパワーオフ機能の設定を ON にします。

3. 5秒間放置するか [**PTT**] を押すと設定が完了し、セットメニューの設定が終了する。

設定ソフトウェアによる設定

■オートパワーオフを ON/OFF する

1. CL1K 設定ソフトウェアの機能データーから「オートパワーオフ」を選択します。

2. 設定値を選択します。

OFF（初期値）	機能を OFF にします。
ON	機能を ON にします。

3. 設定を編集後、パソコンにデータを保存する場合は「プロファイルの保存」、CL1K へデータを書き込む場合は「書き込み」をクリックします。

電池の持ち時間を改善する設定

設定ソフトウェアによる設定

■バッテリーセーブ機能を ON/OFF する

1. CL1K 設定ソフトウェアの機能データーから「バッテリーセーブ」を選択します。

2. 設定値を選択します。

OFF（初期値）	機能を OFF にします。
ON	機能を ON にします。

3. 設定を編集後、パソコンにデータを保存する場合は「プロファイルの保存」、CL1K へデータを書き込む場合は「書き込み」をクリックします。

キーパッドに関係する設定

CL1K 本体で出来る設定

■キーパッドロック機能を ON/OFF する

1. CL1K 設定ソフトウェアの機能データーから「キーパッドロック」を選択します。

2. 設定値を選択します。

OFF	機能を OFF にします。
ON（初期値）	機能を ON にします。

3. 設定を編集後、パソコンにデータを保存する場合は「プロファイルの保存」、CL1K へデータを書き込む場合は「書き込み」をクリックします。

設定ソフトウェアによる設定

■キーパッドトーン機能を ON/OFF する

1. CL1K 設定ソフトウェアの機能データーから「キーパッドトーン」を選択します。

2. 設定値を選択します。

OFF	機能を OFF にします。
ON（初期値）	機能を ON にします。

3. 設定を編集後、パソコンにデータを保存する場合は「プロファイルの保存」、CL1K へデータを書き込む場合は「書き込み」をクリックします。

PTT に関係する設定

設定ソフトウェアによる設定

■ PTT ホールド機能を ON/OFF する

ON に設定すると PTT を一度押すことにより再度 PTT を押すまで送信状態が続きます。

1. CL1K 設定ソフトウェアの機能データーから「PTT ホールド」を選択します。

2. 設定値を選択します。

OFF（初期値）	機能を OFF にします。
ON	機能を ON にします。

3. 設定を編集後、パソコンにデータを保存する場合は「プロファイルの保存」、CL1K へデータを書き込む場合は「書き込み」をクリックします。

音に関係する設定

設定ソフトウェアによる設定

■呼び出し音送出を ON/OFF する

呼び出し音の回数を設定することができます。

1. CL1K 設定ソフトウェアの機能データーから「呼び出し音送出」を選択します。

2. 設定値を選択します。

1（初期値）, 2, 3, 4, 5

3. 設定を編集後、パソコンにデータを保存する場合は「プロファイルの保存」、CL1K へデータを書き込む場合は「書き込み」をクリックします。

■ワンタッチで音量を変更する

1. CL1K 設定ソフトウェアの機能データーから「ワンタッチ音量変更」を選択します。

2. 設定値を選択します。

設定値	説明
PTT（初期値）	PTT を押している間、音量を最大にすることができる。
消音	PTT を押している間、音量を消音することができる。
+Level3	PTT を押すと、音量を +Level3 大きくすることができる。
-Level3	PTT を押すと、音量を -Level3 小さくすることができる。

3. 設定を編集後、パソコンにデータを保存する場合は「プロファイルの保存」、CL1K へデータを書き込む場合は「書き込み」をクリックします。

音に関係する設定

設定ソフトウェアによる設定

■マイクの動作を切り替える

この設定では、オーディオアクセサリーを接続した場合のマイクの動作を切り替えることができます。

1. CL1K 設定ソフトウェアの機能データーから「マイク切り替え」を選択します。

2. 設定値を選択します。

外部のみ	外部オーディオアクセサリーのマイクのみ有効になります。
両マイク	オーディオアクセサリーと、トランシーバー本体のマイクが両方有効になります。（マイクのないアクセサリーを使用するときは、こちらを選択してください）。

3. 設定を編集後、パソコンにデータを保存する場合は「プロファイルの保存」、CL1K へデータを書き込む場合は「書き込み」をクリックします。

表示に関係する設定

設定ソフトウェアによる設定

■待ち受け画面を ON/OFF する

待ち受け画面をＯＮにすると、待機中約７秒に一度 が表示され、CL1K が動作していることを知ることができます。

1. CL1K 設定ソフトウェアの機能データーから「待ち受け画面」を選択します。

2. 設定値を選択します。

OFF	機能を OFF にします。
ON（初期値）	機能を ON にします。

3. 設定を編集後、パソコンにデータを保存する場合は「プロファイルの保存」、CL1K へデータを書き込む場合は「書き込み」をクリックします。

■送受信状態表示を ON/OFF する

送受信状態表示のアニメーションを ON/OFF することができます。

1. CL1K 設定ソフトウェアの機能データーから「送受アニメーション」を選択します。

2. 設定値を選択します。

OFF	機能を OFF にします。
ON（初期値）	機能を ON にします。

3. 設定を編集後、パソコンにデータを保存する場合は「プロファイルの保存」、CL1K へデータを書き込む場合は「書き込み」をクリックします。

表示に関係する設定

設定ソフトウェアによる設定

■音量調節バーの表示を ON/OFF する

音量調節バーのアニメーションを ON/OFF することができます。

1. CL1K 設定ソフトウェアの機能データーから「音量調節キーアニメーション」を選択します。

2. 設定値を選択します。

OFF	機能を OFF にします。
ON（初期値）	機能を ON にします。

3. 設定を編集後、パソコンにデータを保存する場合は「プロファイルの保存」、CL1K へデータを書き込む場合は「書き込み」をクリックします。

■キーロックアニメーションの表示を ON/OFF する

キーロックのアニメーションを ON/OFF することができます。

1. CL1K 設定ソフトウェアの機能データーから「キーロックアニメーション」を選択します。

2. 設定値を選択します。

OFF	機能を OFF にします。
ON（初期値）	機能を ON にします。

3. 設定を編集後、パソコンにデータを保存する場合は「プロファイルの保存」、CL1K へデータを書き込む場合は「書き込み」をクリックします。

表示に関係する設定

設定ソフトウェアによる設定

■ INFO ボタンを押したときの表示を ON/OFF する

INFO ボタンを押したときに表示されるチャンネル番号やバッテリー残量表示を ON/OFF することができます。

1. CL1K 設定ソフトウェアの機能データーから「info モードアニメーション」を選択します。

2. 設定値を選択します。

OFF	機能を OFF にします。
ON（初期値）	機能を ON にします。

3. 設定を編集後、パソコンにデータを保存する場合は「プロファイルの保存」、CL1K へデータを書き込む場合は「書き込み」をクリックします。

■電源オン・オフのアニメーション表示を ON/OFF する

電源オンもしくはオフ時のアニメーションを ON/OFF することができます。

1. CL1K 設定ソフトウェアの機能データーから「電源オン・オフアニメーション」を選択します。

2. 設定値を選択します。

OFF	機能を OFF にします。
ON（初期値）	機能を ON にします。

3. 設定を編集後、パソコンにデータを保存する場合は「プロファイルの保存」、CL1K へデータを書き込む場合は「書き込み」をクリックします。

表示に関係する設定

設定ソフトウェアによる設定

■メニューモードアニメーションの表示を ON/OFF する

メニューボタンを押したときに表示される機能を ON/OFF することができます。

1. CL1K 設定ソフトウェアの機能データーから「メニューモードアニメーション」を選択します。

2. 設定値を選択します。

OFF	機能を OFF にします。
ON（初期値）	機能を ON にします。

3. 設定を編集後、パソコンにデータを保存する場合は「プロファイルの保存」、CL1K へデータを書き込む場合は「書き込み」をクリックします。

■キーパッドバックライトを ON/OFF する

キーパットのバックライトを ON/OFF することができます。

1. CL1K 設定ソフトウェアの機能データーから「キーパッド・バックライト」を選択します。

2. 設定値を選択します。

OFF	機能を OFF にします。
ON（初期値）	機能を ON にします。

3. 設定を編集後、パソコンにデータを保存する場合は「プロファイルの保存」、CL1K へデータを書き込む場合は「書き込み」をクリックします。

オールリセットに関係する設定

CL1K 本体で出来る設定

■オールリセットを行う

スイッチを押しても反応しない、CL1K が誤動作してる等、正常に動作しない時は次の手順でオールリセットをしてください。

オールリセットを行うと設定状態や CL1K 設定ソフトウェアで設定した内容が全て削除され、工場出荷時の“初期値”に戻ります。

1. CL1K の電源をきります。
2. [+] と電源ボタンを一緒に押し、オールリセットの設定に入ります。
3. Reset アイコン「R」が表示されます。
4. [＋] または [ー] を短く押して選択する。

OFF	オールリセットが OFF になる。
ON（初期値）	オールリセットが ON になる。

5. [**PTT**] を押します。
   ON に設定した場合は、「R」が点滅しオールリセットが ON に設定されます。
6. [**PTT**] と電源ボタンを一緒に押します。
7. いずれかのボタンを押すと、リセットを終了します。

設定ソフトウェアによる設定

■工場出荷時リセットを ON/OFF する

誤ってオールリセットをされないように、オールリセットの機能をロック（設定：OFF）することができます。

1. CL1K 設定ソフトウェアの機能データーから「工場出荷時リセット」を選択します。

2. 設定値を選択します。

OFF	機能を OFF にします。
ON（初期値）	機能を ON にします。

3. 設定を編集後、パソコンにデータを保存する場合は「プロファイルの保存」、CL1K へデータを書き込む場合は「書き込み」をクリックします。

CL1K の設定を複製（クローン）する

① 単体のチャージャースタンドからケーブル（電源または USB ケーブル）を抜きます。

② チャージャースタンドを 2 台用意し、クローニングケーブルで 2 台のチャージャースタンドを接続します。

- クローン機能は 1 台のチャージャースタンドで行うことはできません。クローン機能は 2 台のチャージャースタンドを用意して行ってください。
- クローン機能では、電池パックの充電は行いませんので、満充電の電池パックを使用してください。クローン中電源が切れるとデーターが破損することがあります。

③ 送り側と受け側のCL1Kを上に向けた状態（キーが上面にある状態）でチャージャースタンドに設置します。

④ 送り側の“**INFO**”を押しながら電源を入れます。また、受け側も同様、“**INFO**”を押しながら電源を入れます。

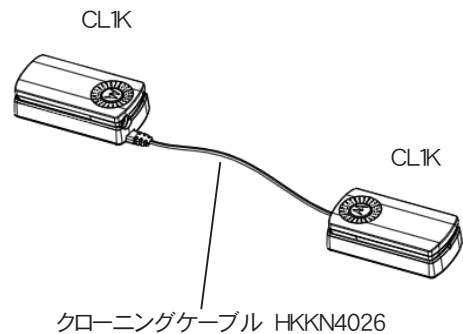
⑤ 送り側と受け側にクローンアイコン“C”が点灯、現在の設定が点滅します（OFF：▪ ON：▪ ）。

⑥ 送り側の“**+**”/“**−**”で、クローンを“ON”に設定し、受け側も“**+**”/“**−**”で、クローンを“ON”に設定します。

⑦ 送り側の PTT を押し、受け側も同様、PTT を押します。

⑧ 送り側の PTT を再度押します。
現在のチャンネル、CTCSS/DCS の番号、メニューの設定（スケルチ、VOX、音声ガイド、APO）などがクローンされます。

⑨ 受け側では、クローンが終了して成功すると「ピピッ」とビープ音が鳴りアイコン“C”が点灯します。失敗すると「ブブッ」とビープ音が鳴りアイコン“E”が点滅しますので、最初からやり直してください。

クローン機能を終了する場合は、送り側と受け側の“**+**”/“**−**”で、クローンを“OFF”に選択し、電源を切って下さい。

モトローラ製品のお問い合わせ先 03-6365-7000
ホームページ........................ http://www.motorolasolutions.com/JP

仕様は改良のため、予告なしに変更することがあります。

モトローラ、MOTOROLA、モトローラ・ソリューションズ、MOTOROLA SOLUTIONS およびモトローラのロゴマークはMotorola Trademark Holdings, LLC.の登録商標であり、そのライセンスに基づき使用しています。文中に記載されている他の製品名やサービス名等は、各社の商標または登録商標です。

モトローラ・ソリューションズ株式会社 PCR 事業部
〒 106-0032 東京都港区六本木 1-8-7 アーク八木ヒルズ

140902